



説明に耳を傾ける参加者



健苗育成に向けて水稻育苗講習会を開催

営農企画課

営農企画課では稲作作業の本格化を迎え、育苗技術向上や栽培の注意点などを説明する、能代地区水稻育苗講習会を3月26日に開きました。能代地区の生産者ら約30人が参加し、「水稻育苗管理の基本的技術」や「水稻育苗期の病害虫対策」について説明を受けました。

山本地域振興局農林部の田口氏は、田植え予定日と苗の種類からさかのぼって播種量、播種日を決めることに触れ「作付面積が大きい場合や数品種を組み合わせて作付けする場合は、作業計画をしっかり立て、極端に田植えが遅れ

ないようにしてもらいたい」と呼び掛けました。

また、クミアイ化学工業㈱の担当者は、ばか苗病をはじめとする多くの病害に効果の高い、総合種子消毒剤のテクリードCフロアブルを紹介しました。担当者からは「水温が低いと出芽揃いが悪くなるため、浸種水温は10℃以下にならないようにし、催芽は30℃～32℃を厳守してもらいたい。苗半作と言われるように適切な作業を行い、立派な苗をつくってもらいたい」と話しました。

優良大豆の安定生産を目指す

大豆生産組合

大豆生産組合（大塚忠之組合長）による臨時総会並びに実績検討会が3月16日に開かれ、生産者ら約30人が参加しました。

臨時総会では30年度事業報告や現地圃場巡回や視察研修を盛り込んだ31年度事業計画などについて協議をし、それぞれ承認されました。また、実績検討会では秋田県産大豆の情勢や粒大・等級比率の実績などについて話したほか、今年度の対策として①明渠や弾丸暗渠等施工による排水対策の徹底、②適正な作付け計画と適期播種作業、③難防除雑草の圃場への侵入防止などについても説明があり、参加者らは担当者の話に耳を傾けていました。



今年度の栽培について協議した



農機具の説明を受ける来場者

春作業へ向けて新型農機具が大集結

農業機械課

J Aあきた白神主催による「農業機械展示会」が3月20日、カントリーエレベーター特設会場で開かれ、多くの来場者で賑わいました。

会場にはメーカーごとに田植機やトラクター、播種機等を多数展示。来場者はJ A職員や各メーカー担当者の説明を熱心に聞きながら、農機具の性能を確認していました。また、農作業安全講習会も行われ、春作業が始まる前に行うべき農業機械の点検や手入れの方法、そして安全に使用するための留意点が説明されました。担当者からは「機械はより安全に使用できるようになってきているが、事故の無いよう農作業に励んでもらいたい」と呼び掛けました。

